



麦茶号



第187号

発行日：令和元年8月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院

院内情報委員会

診察室から～特発性正常圧水頭症～

理事長 福田 雄高

近年注目されている脳に関わる病気のひとつに特発性正常圧水頭症という病気があります。“特発性”の“水（みず）”の“頭（あたま）”の病気とは一体どういう病気でしょう。

脳は骨や膜で守られています。その他に脳を守るものとして非常に重要なものに髄液（脳脊髄液）という液体があります。髄液は脳のまわりを絶えず流れています。髄液という水の中に浮いているイメージで、脳はまわりからの衝撃から守られています。脳のある部位から1日約500ml発生しては吸収され、200ml程度常に存在しています。調べてみると、正常な髄液に菌は認めず、見た目は無色透明で、さらっとしています。

頭の中に髄液が余計に貯まってしまうのが水頭症という病気です。くも膜下出血や脳出血、脳腫瘍の影響で貯まってしまう水頭症は以前から指摘されていました。その一方で、特に頭の病気はないのに、主に年をとることで、髄液の吸収が妨げられることによって起きる、原因が特定できない“特発性”が近年指摘されています。数としては、可能性のある方は高齢者の1.1%と言われており、2015年佐賀県高齢者人口22万9000人から試算すると実に2500人強に可能性があることとなります。



特発性正常圧水頭症の特徴的な3つの症状とは、“物忘れ”、“歩きにくさ”“尿失禁”です。特に転びやすくなった高齢の方は要注意です。症状がわかりにくい為に、年齢のせいだろうと放置されたままにされている方も多いものと考えます。

診断は、まず頭部MRIになります。脳萎縮と違って、不均一な水の貯まりがその特徴です。症状、画像から水頭症を疑うと、まずは髄液除去試験（タップテスト）をすることが多いです。背中から髄液を抜き、一時的に症状の改善を認めることがあれば、治療による症状の改善が期待されます。

実際に治療適応があると、体の中に細いチューブを留置するシャント手術を行います。手術は1時間前後かかりますが、少なくとも歩きやすくなった、反応が良くなったなど認めることが多い印象です。物忘れだったり、またよく転びやすい方は気掛けて頂き、気軽に質問頂ければと思います。